



## 2021年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年2月9日

上場会社名 株式会社 翻訳センター  
 コード番号 2483 URL <http://www.honyakuctr.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 二宮 俊一郎

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理統括 (氏名) 魚谷 昌司

TEL 06-6282-5013

四半期報告書提出予定日 2021年2月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	7,092	17.4	124	75.9	161	69.2	115	
2020年3月期第3四半期	8,595	0.9	519	5.7	527	4.6	331	19.6

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 118百万円 ( %) 2020年3月期第3四半期 328百万円 ( 20.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	34.63	
2020年3月期第3四半期	99.90	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	5,848	4,292	73.3
2020年3月期	6,222	4,545	73.0

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 4,292百万円 2020年3月期 4,545百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		42.00	42.00
2021年3月期		0.00			
2021年3月期(予想)				20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,600	16.8	300	63.1	340	58.6	30	90.1	9.02

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 社 (社名) 、 除外 1 社 (社名) 株式会社アイ・エス・エス・イン  
スティテュート

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期3Q	3,369,000 株	2020年3月期	3,369,000 株
期末自己株式数	2021年3月期3Q	41,922 株	2020年3月期	45,922 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期3Q	3,325,078 株	2020年3月期3Q	3,320,864 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

なお、2020年4月1日付で株式会社アイ・エス・エスを存続会社、株式会社アイ・エス・エス・インスティテュートを消滅会社とする当社の連結子会社間での吸収合併を実施しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	7
(セグメント情報等) .....	7
(追加情報) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、第1四半期には新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に伴う経済活動の停滞や縮小により、景気は急速に悪化いたしました。第2四半期以降は感染拡大が落ち着きを見せ、財政支援もあり国内の景気に一部持ち直しの動きが見られたものの、年末以降、同感染症のさらなる拡大が懸念されており、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く環境におきましても、翻訳事業では製造業を中心とした景況感の低下基調に加え、顧客企業のテレワークの導入拡大に伴う事業活動の停滞の影響、通訳事業及びコンベンション事業では対面での会議・商談の自粛や国際会議（学会・研究会）やセミナー・シンポジウム、各種展示会等の開催中止・延期などの影響もあり、引き続き厳しい状況が続いております。

このような環境のもと、当社グループは当期が最終年度となる第四次中期経営計画（2019年3月期～2021年3月期）で掲げた重点施策を継続的に推進し、中核事業である翻訳事業の持続的成長を目指すとともに翻訳支援ツールや機械翻訳など最先端技術の積極的な活用を推し進め、企業のグローバル展開に伴う翻訳・通訳需要の獲得に努めてまいりました。また、オンラインによる営業活動の推進や非対面で通訳業務が遂行できる電話会議やWeb会議など、従来の形態にとらわれないサービスを積極的に提案するなど、受注機会の創出に向けた取り組みを進めてまいりました。依然として予断を許さない状況にあるものの、同感染症の拡大に伴う経済活動の停滞による影響は、コアビジネスである翻訳事業や通訳事業で底打ちしつつあります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は前年同期比17.4%減の7,092百万円、営業利益は前年同期比75.9%減の124百万円、経常利益は前年同期比69.2%減の161百万円、のれんの減損損失を特別損失に計上したことから親会社株主に帰属する四半期純損失は115百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益331百万円）となりました。

各セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ① 翻訳事業

特許分野では特許事務所からの受注が低調に推移したため、売上高は前年同期比8.1%減の1,562百万円となりました。医薬分野では外資製薬会社からの受注が順調に推移し、国内製薬会社との取引も拡大したため、売上高は前年同期比2.4%増の2,076百万円となりました。工業・ローライゼーション分野では、IT・情報通信企業との取引が好調に推移したものの主要顧客である自動車関連企業からの受注が低調となったため、売上高は前年同期比21.1%減の1,338百万円となりました。金融・法務分野では金融機関、企業の管理系部署からの受注低迷により、売上高は前年同期比23.6%減の364百万円となりました。

これらの結果、翻訳事業の売上高は前年同期比9.5%減の5,342百万円となりました。

#### ② 派遣事業

語学スキルの高い人材を派遣する派遣事業においては、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により新規顧客の獲得は限定されたものの、既存顧客との取引が堅調に推移したため、売上高は前年同期比1.1%増の922百万円となりました。

#### ③ 通訳事業

通訳事業においては、新型コロナウイルス感染拡大防止策の継続に伴う対面での会議通訳案件の受注減少により、売上高は前年同期比59.7%減の341百万円となりました。Web会議システムの普及が進む中、オンライン通訳の提供を行っており、引き続きサービスの拡充を進めてまいります。

#### ④ コンベンション事業

コンベンション事業においては、「日本臨床神経生理学会学術大会第50回記念大会」を始めとする医学会案件の受託・運営を行いました。大型国際会議の開催中止・延期の影響から、売上高は前年同期比64.6%減の221百万円となりました。

#### ⑤ 語学教育事業

語学教育事業においては、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により通訳者・翻訳者養成スクール「アイ・エス・エス・インスティテュート」の講座開講を中止・延期したことから、売上高は前年同期比46.8%減の71百万円となりました。

#### ⑥ その他

その他のセグメントにおいては、外国への特許出願に伴う明細書の作成や出願手続きを行う株式会社外国出願支援サービスが順調に推移したことなどから、売上高は前年同期比12.3%増の193百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は5,026百万円となり、前連結会計年度末に比べ187百万円減少いたしました。これは主に売上高の減少に伴い、受取手形及び売掛金が減少したことによるものであります。固定資産は822百万円となり、前連結会計年度末に比べ187百万円減少いたしました。これは主にのれんの減損により、無形固定資産が減少したことによるものであります。

この結果、総資産は5,848百万円となり、前連結会計年度末に比べ374百万円減少いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は1,386百万円となり、前連結会計年度末に比べ116百万円減少いたしました。これは主に買掛金が減少したことによるものであります。固定負債は169百万円となり、前連結会計年度末に比べ4百万円減少いたしました。これは主に役員退職慰労引当金が減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は1,556百万円となり、前連結会計年度末に比べ120百万円減少いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は4,292百万円となり、前連結会計年度末に比べ253百万円減少いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純損失の計上および剰余金の配当によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、本日(2021年2月9日)公表の「業績予想の上方修正及び特別損失の計上に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,917,509	2,980,784
受取手形及び売掛金(純額)	1,944,249	1,673,858
仕掛品	133,914	137,709
その他	217,940	233,765
流動資産合計	5,213,613	5,026,117
固定資産		
有形固定資産	67,001	57,913
無形固定資産		
のれん	213,350	—
その他	98,258	116,637
無形固定資産合計	311,608	116,637
投資その他の資産	630,527	647,556
固定資産合計	1,009,137	822,107
資産合計	6,222,750	5,848,225
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	728,844	662,856
未払法人税等	58,226	55,860
賞与引当金	272,625	144,293
その他	443,626	523,867
流動負債合計	1,503,322	1,386,878
固定負債		
役員退職慰労引当金	21,400	3,200
退職給付に係る負債	152,153	165,951
固定負債合計	173,553	169,151
負債合計	1,676,876	1,556,030
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	588,443	588,443
資本剰余金	478,823	478,823
利益剰余金	3,577,615	3,317,727
自己株式	△112,955	△103,119
株主資本合計	4,531,926	4,281,874
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	20,165	15,971
退職給付に係る調整累計額	△6,217	△5,651
その他の包括利益累計額合計	13,947	10,320
純資産合計	4,545,874	4,292,194
負債純資産合計	6,222,750	5,848,225

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	8,595,817	7,092,111
売上原価	4,948,290	3,982,454
売上総利益	3,647,526	3,109,657
販売費及び一般管理費	3,127,719	2,984,803
営業利益	519,807	124,853
営業外収益		
受取利息	50	42
持分法による投資利益	5,935	—
為替差益	1,068	2,101
助成金収入等	—	35,188
その他	1,078	1,960
営業外収益合計	8,133	39,293
営業外費用		
持分法による投資損失	—	471
支払手数料	—	1,275
その他	907	534
営業外費用合計	907	2,281
経常利益	527,033	161,865
特別損失		
固定資産除却損	1,755	655
減損損失	—	192,703
投資有価証券売却損	484	—
特別損失合計	2,239	193,358
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	524,793	△31,493
法人税等	193,032	83,684
四半期純利益又は四半期純損失(△)	331,761	△115,178
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	331,761	△115,178

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	331,761	△115,178
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	237	—
為替換算調整勘定	△3,720	△4,193
退職給付に係る調整額	362	566
その他の包括利益合計	△3,121	△3,627
四半期包括利益	328,639	△118,806
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	328,639	△118,806
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	翻訳事業	派遣事業	通訳事業	語学教育事業	コンベンション事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	5,903,346	912,024	848,849	133,824	625,305	8,423,350	172,466	8,595,817
セグメント間の内部売上高又は振替高	34,564	1,144	31,726	1,322	—	68,757	6,556	75,314
計	5,937,911	913,168	880,575	135,147	625,305	8,492,108	179,023	8,671,131
セグメント利益又は損失(△)	399,264	57,600	63,400	△15,599	21,007	525,673	△19,389	506,283

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外国出願支援事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	525,673
「その他」の区分の利益	△19,389
セグメント間取引消去	13,523
四半期連結損益計算書の営業利益	519,807

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	翻訳事業	派遣事業	通訳事業	語学教育事業	コンベンション事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	5,342,290	922,354	341,353	71,135	221,286	6,898,421	193,689	7,092,111
セグメント間の内部売上高又は振替高	51,316	—	11,417	956	—	63,690	514	64,205
計	5,393,606	922,354	352,771	72,091	221,286	6,962,111	194,204	7,156,316
セグメント利益又は損失(△)	226,630	74,571	△61,894	△37,361	△62,221	139,724	△22,238	117,485

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外国出願支援事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	139,724
「その他」の区分の利益	△22,238
セグメント間取引消去	7,367
四半期連結損益計算書の営業利益	124,853

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より「その他」に含めていた「語学教育事業」について、量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「翻訳事業」セグメントにおいて、のれんの減損損失を計上しております。当該事象によるのれんの減少額は、当第3四半期連結累計期間においては192,703千円であります。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りの仮定につきましては、前連結会計年度の有価証券報告書の追加情報に記載した内容から重要な変更はありません。